

## 日本薬剤師連盟が支援する参議院議員“2人

今年7月の参議院議員選挙で本田顕子氏が当選したことは画期的なことだった。これまで藤井基之議員の“1人体制”だった日本薬剤師連盟が支援する参議院議員が、“2人体制”となったからだ。背景には現場の薬剤師の強い危機感があつたに違いない。期待を受けて、どのように政策実現を果たすのか。本田顕子氏と藤井基之氏に今後の展望を聞いた。

(本誌編集長兼デスク・菅原 幸子)

## 本田顕子議員に聞く

# 「薬剤師は医師と同じ医療の という覚悟を持って 在るべき医薬分業の姿を目 女性ならではの視点から提言 育児中の「かかりつけ薬剤師」の要件のさらなる

新人でありながら15万9,596票を獲得した本田顕子氏。日本薬剤師会の会員10万人を上回り、30万人といわれる薬剤師を母数とすると、その半数の支持を得た計算になる。それだけ期待も大きいものがあるが、本田氏は今後の政策課題について、「医師と薬剤師が相互信頼のもと、連携・協働する医薬分業をさらに定着させていきたい」と明言。そこに向けて、関係者と方策を議論していきたいとの考えを述べた。

## 薬剤師の危機感が 票に表れた

——改めてですが、15万9,596票という得票数について、どのよう

に受け止めていらっしゃいますか。

**本田** 全国の薬剤師、薬業関係の皆さんのお力のおかげだと思っています。ここに至るまで、2年4カ月という十分とは言えない準備期間にもかかわらず、集中して

活動ができたことも一つの要因ではないかと思っています。

——票の内訳ですが、どういった票が集まったと分析されていますか。

**本田** 一言でいうと、薬剤師と薬業界の票ですね。

——今回は、日本薬業政治連盟(薬政連)も全面的に応援に回っていましたね。

**本田** 卸業の皆さまには、最後の最後までご支援いただき、感謝しております。

——そのあたりが「薬業界の票」という表現になるわけですね。一

## 体制”の展望

## CONTENTS

- ・本田顕子議員に聞く …………… P14
- ・藤井基之議員に聞く …………… P17
- ・本誌「得票分析」…………… P20
- ・本誌レポート「今後の展望」… P23



本田顕子氏

## 担い手」

## 指す

## 緩和も

部、個別企業においては調剤チェーンも応援されたとお聞きしています。

**本田** 組織としての支持ということではなかったのですが、個別企業さんには、ご指摘の通り、会社を挙げて応援していただきました。

——それ以外に、本田議員の地元である熊本の票も後押しになりましたね。

**本田** はい。これまで、熊本県の薬剤師関係の票は3,000程度と聞いていましたが、今回は1万5,000票をいただきました。また、

私の本籍は南関町という小さな町ですが、連盟の会員は1~2人しかいないのですが、648票をいただきました。これは本当に有難いことです。

それから、肝に銘じておかななくてはならないことは、責任政党としての票の重みです。「本田あきこ」と投票用紙に記載していただいても、その中には自民党を応援したいというお気持ちの中で比例でも応援をしていただいている方もいるということです。薬剤師としてだけでなく、責任政党の議員の一人として、その役割をしっかりと果たしていかなければいけないと考えています。

——一番の勝因を強いて挙げるなら何だとお考えですか。

**本田** 薬剤師の皆さんが危機感を強く持っていたことだと思います。6月ぐらいだったと思いますが、次の調剤報酬改定は大変厳しいという報道がありました。私が薬剤師の皆さんにお声がけさせていただいたのは、「今、私たち薬剤

師が声をあげなければ、薬剤師の存在は不要だと言われてしまう」ということです。「現場の薬剤師は頑張っている、やはり票数で見られてしまう。評価をしてもらうために意思表示をしましょう」と呼びかけさせていただきました。「このままではいけない」という薬剤師の危機感が票数に込められていると思っています。

## あるべき「医薬分業」の 定着を目指す

——今後ですが、政治家として、どのような抱負を持っていますか。

**本田** 薬剤師連盟は、日本薬剤師会の目的を達成するため、政治面から支援する組織です。日本薬剤師会が長年にわたり闘ってきたのは医薬分業をわが国に定着させることです。ここまで進展してきた医薬分業が、国民の間にさらに定着できるように環境整備してい



本田顕子議員の事務所にて、小社代表取締役社長の安藤俊仁（写真右）と

きたいと考えています。

——具体的にはどのあたりが課題になるのですか。

**本田** 医薬分業において、「医師から薬剤師へ」という流れはできたと思うのです。しかし、本来、医師と薬剤師は同じ医療の担い手として、同じ視点で患者に対峙すべきであることを考えると、場合によっては「薬剤師から医師へ」という双方向があってもよいと思うのです。しかし、まだ、そうした関係には十分に至っていないと思うのです。同じ視点という中には、提供した医療やその患者に対して同じ責任が伴うということです。薬剤師自身がこうした覚悟を持って、地域の人々からファーストアクセスポイントとして薬剤師を選んでもらえるようになっていかなければいけないと思います。そのための環境整備には何が必要なのか、制度上の問題も含めて皆さんと議論していきたいと考えています。

——年末にも大詰めを迎える調剤報酬に関してはいかがですか。

**本田** 社会保障費全体が厳しい

状況の中で、地域医療提供体制が崩壊しないよう、医科・歯科・調剤が公平な改定となるよう、他の薬剤師議員の先生方のご指導を得ながら、政治面から要望していきます。

——そのほかに取り組みたいテーマにはどのようなものがありますか。

**本田** 薬剤師は比較的女性が多いですし、私自身も女性ですので、女性がより働きやすい環境整備も行っていきたいと考えています。

——具体的には。

**本田** 例えば、かかりつけ薬剤師指導料の要件をとって見ても、育児中の女性にとっては時間的な制約が、キャリアアップをしたいと思っている女性薬剤師の足かせになっていることも事実です。こうした女性薬剤師を応援するためにも、要件のさらなる緩和も検討すべき事項の一つだと捉えています。また、熊本地震の経験から災害対策の重要性は痛感していますので、災害対策についても強化・拡充に携わりたいと思っています。

——藤井議員との連携はいかが

ですか。

**本田** 当然のことながら、大変見識のある先生ですので、現在もたくさんのことを教えていただいています。その分、急遽、藤井議員が出られない部会などがあれば、私が出させていただいたり、お互いに補完できるようになりたいと思っています。

——分かりました。ありがとうございました。

**ほんだ・あきこ** ●参議院議員。比例代表（全国区）当選回数1回。薬剤師。1971年9月29日生まれ、熊本県出身。医薬品卸や保険薬局勤務を経て、令和元年7月21日の参議院議員選挙（全国比例代表）にて、得票数15万9,596にて当選。趣味は街の散策、美術鑑賞。スポーツは小学3年生～中学3年生までバドミントン（中2で全国中学校選抜選手権団体優勝）。平成2年私立九州女学院高等学校（現ルーテル学院）卒業。平成8年星薬科大学卒業。自民党内の所属委員会は参議院国会対策委員会。座右の銘は「直往邁進」（まっすぐにわき目もふらず前進すること）

## 藤井基之議員に聞く

# 組織の基盤を固めるには「人を育てる」ことが必須 薬剤師の年齢分布に沿った 擁立議員の若返り図れ

周知の通り、藤井基之氏が次回、参院選に出馬しない意向を示している。本誌のインタビューは不出馬の意向が明らかにされた9月18日以前に収録されたが、藤井氏は本誌に対し、「人を育てなければ組織は脆弱化する」と、その真意を語ってくれていた。「薬剤師の年齢分布を踏まえた人材を育てるべきだ」という指摘は、正鵠を射ているのではないだろうか。

## 3年に1度、候補を 当選させて「一人前」

——今回の本田議員の当選で、これまで日本薬剤師連盟が支援する参議院議員が藤井議員の1人体制から2人体制になったのは画期的だったと思います。

**藤井** 3年前、私が当選させていただいた直後に、日本薬剤師連盟の山本信夫会長に、「3年後に組織内候補者を擁立しよう」と話させていただいたことがありました。組織体としてそれなりに評価されるためには、少なくとも参議院の比例選挙であれば、組織の候補を3年ごとに当選させられる力を持っている必要があるからです。

——そういう意味では、今回は非常

に嬉しいし、ようやく、これで自民党式にいうと、「日本薬剤師連盟は一人前の組織になった」というふうに見てくれるだろうと思います。

しかも、医師会や歯科医師会の候補者よりも得票数で上回ることができました。医師会、歯科医師会というのは政治資金力では薬剤師会より圧倒的に大きいのです。そして、医師会や歯科医師会の候補者は議員経験のある人でした。議席を持ったことのない、新人の本田顕子氏がそういった方々よりも票を得たことは、冷静に考えてもそれなりの評価をしていいと思っています。

ただ、そこには「誰が」という固有名詞というものはなくて、「誰であれ」、薬剤師という組織体をバックにした候補者を3年ごとに常

に通せるだけの力を持っているということが非常に大切なのです。

——なぜ、このタイミングで“2人体制”が叶ったとお考えですか。

**藤井** 機が熟したということがあると思います。分業バッシングだ何だと言われながらも、現実的には医薬分業率は7割を超え、それに対応する薬剤師の養成に注力してきました。薬局は5万9,000軒を超えています。

——大局で見れば、例えば平成元年から見れば、社会的な環境は全く違っているということですね。

**藤井** 私はそう思っています。以前から分業バッシングはありました。その時に薬剤師の資質向上という命題に対処し、その実現を図ったのが、薬学教育6年制です。そういう意味では薬学教育6年制も、医薬分業進展のための環境整備の一つでもありました。

——薬学教育6年制の実現においては、藤井議員の奔走がありましたね。

**藤井** 6年制にしたいとずっと言っていたのは薬剤師会でした。私学教育側にしても反対の声が大

きかった。「できるわけがない」とよく言われたものです。しかし、世界的にみても薬剤師は6年制教育ですし、必要な臨床のカリキュラムを組み立てると6年間が必要であることを訴えました。

——6年制を実現したビジョン優先のような意識も、藤井議員から本田議員に助言できるどころかもしれませんね。

**藤井** 私たちは国会議員になるのが目標ではないのです。本田先生もそうだと思います。何かをやりたいから、そのために国会議員にならなければいけない。彼女にもやりたいことがあると思います。それは私とは違う目標かもしれません。

——本田議員と2人体制にあたって、どのように連携していくお考えですか。

**藤井** 今日もこれから打ち合わせをしますし、しょっちゅう顔を合わせています。ただ、本田議員は本田議員なりの持ち味が発揮で

ければ、私はそれでいいと思っています。同じ薬剤師国会議員といっても金太郎飴みたいなものでは絶対にありません。もし金太郎飴だったら2人存在する必要がないと思います。私に行政のバックグラウンドがあるというのだったら、本田議員は薬局や卸の現場経験がある。そこから、提言できる政策があると思います。それから、薬剤師の6割は女性ですから、本田議員の女性ならではの視点も生かせると思います。

## 地域との接点づくりが薬剤師の課題

——今後の薬剤師の政策課題はどのあたりだと捉えていますか。

**藤井** 薬剤師の課題はまずは薬物療法をより良いものにしていくことです。分業という仕組みが出来上がりましたが、理念的に目指していた分業の形になったかどう

かということは別なのです。医薬分業というのは、本質的には処方する医師、歯科医師と調剤を担当する薬剤師が、患者さんに対して対等な形で対応してはじめて、理念的にも確立するものです。

そして、今後は地域との接点をどういうふうに作り上げていくかが、間違いなく薬剤師の課題になるでしょう。

現在、オンライン診療やオンライン服薬指導の議論が進展していますが、時代の流れだと思います。移動が困難になる高齢者の方々に対しても、どうベッドサイドまで薬物療法を提供していくのか。人口が減って、生産性を上げていかざるを得ないのだから当然の流れです。

「患者のための薬局ビジョン」を見ると、ある程度の規模がなければ、これからの薬局は厳しくなっていくことが読み取れます。こういった時代の流れを見た時に、薬剤師会はどう対応していくのか。薬剤師会は薬局経営者の団体ではありません。薬剤師会の職能団体として、何をすべきなのかということは当然、考えていかなければいけないと思います。

——3年後に藤井議員が当選してはじめて、2人体制が確立するという期待の声も聞きます。

**藤井** 3年後、私は後期高齢者の仲間入りですよ。

——どういう真意でしょうか。

**藤井** 「新しい人間を立てるべきではないか」ということです。私が3年後に立つということは、今から9年間という長いインターバルの中で、有為な人材のチャンスを奪うことになりかねない。

冷静に考えると、候補者にするべき条件の一つは年齢です。今、薬剤師の平均年齢はいくつなのか。薬剤師職能の支持層もどのくらいの年齢層なのか。そういった

特に若い層の声を一番に聞いて、それを外に発信できる人間、そういった人材を前面に出すようなことを考えるべきでしょう。

——しかし、藤井議員の後継ということは重責だと思います。藤井議員に後継の心当たりはあるのですか。

**藤井** 私は、石井道子先生の後を受けて参院選に出馬しましたが、石井先生から指名されたわけではありません。日本薬剤師連盟の推挙を受けてのものでした。候補者を決めるのは、全国10万人強の薬剤師会員を有する日本薬剤師会、日本薬剤師連盟の仕事ではないでしょうか。それは連盟の仕事です。今から3年後の準備を進めるべきでしょう。

——分かりました。ありがとうございました。



藤井基之氏

## ふじい・もとゆき プロフィール

参議院議員 比例代表（全国区） 当選回数3回  
薬学博士・薬剤師  
昭和22年3月16日生まれ

岡山県岡山市出身。厚生省（現厚生労働省）では、新医薬品課長、審査課長、麻薬課長を歴任。政治活動では、厚生労働委員会・予算委員会理事を務め、食品安全確保のための食品衛生法改正、健保法改正、医療法改正、健康増進法改正、一般用医薬品販売制度改革および脱法ドラッグ対策のための薬事法改正、薬学教育6年制のための薬剤師法改正、クリーニング業法改正、国民年金法改正等に関与し、国民の健康と安全を守るための立法活動に取り組んだ。

### 役職

自由民主党政策審議会 会長代理  
自由民主党政務調査会 会長代理  
厚生労働委員会 委員  
決算委員会 委員  
政治倫理の確立及び選挙制度に関する特別委員会 筆頭理事  
政府開発援助等に関する特別委員会 委員  
政治倫理審査会 委員

### 著書

『危険ドラッグとの戦い』  
『新・亡国のドラッグ』  
『藤井もとゆきは6年間国会で何ををしたのか？—1年生薬剤師議員奮戦記—』



藤井氏の当選時には小誌でインタビューも掲載していた（2001年9月号）

## 第25回参議院議員通常選挙 本田顕子氏 都道府県別得票数(都道府県順)

2019年7月25日現在

都道府県名	① R1 得票数	② H28 得票数	H28得票数 との差 (①-②)	H28からの 得票伸び率 (①/②)	④日薬 会員数※1	1 会員 あたりの 得票数 (①/④)	⑤ H30 薬局数	1 薬局 あたりの 得票数 (①/⑤)
北海道	5,456	4,782	673.60	114.09%	4,791	1.14	2,344	2.33
青森県	1,904	1,987	-83.48	95.80%	1,483	1.28	608	3.13
岩手県	1,687	1,593	94.00	105.90%	1,764	0.96	594	2.84
宮城県	2,185	1,773	411.60	123.21%	1,593	1.37	1,148	1.90
秋田県	2,046	1,923	122.83	106.39%	1,593	1.28	536	3.82
山形県	1,490	1,289	201.36	115.62%	1,208	1.23	580	2.57
福島県	1,772	1,416	356.23	125.16%	1,362	1.30	894	1.98
茨城県	2,896	3,072	-175.61	94.28%	1,912	1.51	1,290	2.25
栃木県	2,198	2,034	164.00	108.06%	1,237	1.78	877	2.51
群馬県	1,788	1,725	62.59	103.63%	1,283	1.39	891	2.01
埼玉県	4,297	4,468	-171.00	96.17%	2,692	1.60	2,829	1.52
千葉県	4,738	4,613	125.00	102.71%	2,897	1.64	2,429	1.95
神奈川県	8,711	7,225	1,485.80	120.56%	4,088	2.13	3,836	2.27
山梨県	1,326	956	369.84	138.69%	805	1.65	453	2.93
東京都	11,693	11,605	88.00	100.76%	7,159	1.63	6,646	1.76
新潟県	2,522	3,589	-1,066.79	70.28%	1,834	1.38	1,135	2.22
富山県	1,612	1,880	-268.00	85.74%	969	1.66	445	3.62
石川県	1,415	1,535	-120.00	92.18%	741	1.91	526	2.69
福井県	861	990	-129.00	86.97%	550	1.57	291	2.96
長野県	1,970	2,314	-344.00	85.13%	2,207	0.89	966	2.04
岐阜県	2,375	3,032	-656.62	78.34%	1,473	1.61	1,021	2.33
静岡県	5,058	4,923	134.97	102.74%	2,493	2.03	1,813	2.79
愛知県	8,676	9,165	-488.66	94.67%	4,249	2.04	3,321	2.61
三重県	2,783	2,149	634.46	129.52%	1,646	1.69	812	3.43
大阪府	5,687	5,514	173.00	103.14%	8,122	0.70	4,092	1.39
滋賀県	1,908	2,230	-322.00	85.56%	1,063	1.79	597	3.20
京都府	2,224	1,966	257.86	113.12%	3,557	0.63	1,091	2.04
兵庫県	7,376	6,886	490.25	107.12%	8,431	0.87	2,632	2.80
奈良県	1,308	1,368	-60.00	95.61%	1,138	1.15	541	2.42
和歌山県	2,075	1,671	404.00	124.18%	939	2.21	488	4.25
鳥取県	837	1,157	-320.00	72.34%	846	0.99	276	3.03
島根県	1,230	1,415	-184.86	86.94%	1,013	1.21	331	3.72
岡山県	3,494	4,336	-842.00	80.58%	2,087	1.67	830	4.21
広島県	3,652	3,658	-6.00	99.84%	3,004	1.22	1,613	2.26
山口県	2,686	1,858	828.00	144.56%	2,608	1.03	810	3.32

出典：日本薬剤師連盟資料。※1 = 日薬会員数は、紹介者の目標数として定めた平成29年10月31日の日薬会員数に基づく

都道府県名	① R1 得票数	② H28 得票数	H28得票数 との差 (①-②)	H28からの 得票伸び率 (①/②)	④日薬 会員数※1	1 会員 あたりの 得票数 (①/④)	⑤ H30 薬局数	1 薬局 あたりの 得票数 (①/⑤)
徳島県	1,459	1,272	187.43	114.73%	896	1.63	390	3.74
香川県	1,871	1,911	-40.00	97.91%	1,400	1.34	530	3.53
愛媛県	2,078	1,904	174.46	109.16%	1,629	1.28	598	3.48
高知県	1,281	1,054	227.00	121.54%	884	1.45	399	3.21
福岡県	10,903	8,599	2,303.96	126.79%	4,376	2.49	2,891	3.77
佐賀県	1,984	1,788	195.82	110.95%	985	2.01	524	3.79
長崎県	2,047	1,669	378.00	122.65%	1,457	1.40	737	2.78
熊本県	15,199	2,840	12,358.83	535.17%	2,157	7.05	844	18.01
大分県	1,824	2,559	-735.00	71.28%	1,507	1.21	572	3.19
宮崎県	2,642	2,077	564.83	127.19%	1,449	1.82	595	4.44
鹿児島県	3,169	2,840	328.53	111.57%	1,885	1.68	901	3.52
沖縄県	1,203	1,522	-319.07	79.04%	1,170	1.03	571	2.11
合計	159,596	142,132	17,464.15	112.29%	104,632	1.53	59,138	2.70

出典：日本薬剤師連盟資料

## 本誌得票分析

地域別では熊本がダントツ  
前回3000票が今回1万5000票

地域別に本田氏の得票を分析すると、熊本県の1万5000票がダントツ。前回（平成28年、藤井基之氏選挙）の得票数2,840票から1万2,000票以上も増やし、県内1薬局あたりの得票数は驚異の18票に至った（他の地域は1～4票台）。

前回得票数からの伸び率で見ると、トップ5は熊本県（535.2%）、山口県（144.6%）、山梨県（138.7%）、三重県（129.5%）、宮崎県（127.2%）だった。

さらに、1会員あたりの得票数トップ5は熊本県（7.05票）、福岡県（2.49票）、和歌山県（2.21票）、神奈川県（2.13票）、愛知県（2.04票）。

都道府県にある1薬局当たりの得票数トップ5は熊本県（18.01票）、宮崎県（4.44票）、和歌山県（4.25票）、岡山県（4.21票）、秋田県（3.82票）となっている。

和歌山県は、日本薬剤師連盟の幹事長の地元として、票を集めたと考えられる。神奈川県は、本田氏の勤務経験のある薬局の地域と考えられる。

これまで苦戦が伝えられてきた東北ブロックでも、秋田県など、踏ん張りがみえる。

前回、大苦戦した関西エリアも、今回は票を伸ばしたエリアも少なくなかった。

日本薬剤師連盟では、「選挙中、街宣車が回ったのは熊本県を中心に九州エリアのみだったことから、そういったことを考慮すると、前回比でいうと、よく健闘したという総括になるのではないかと」している。

一方、調剤チェーンに関しては、協会関係の組織としての応援はなかったものの、一部、企業として本田氏を応援した大手調剤チェーンがあったといわれている。

また、本田氏のSNSによる発信に関して反響が大きく、SNSを活用しているユーザー層を考慮すると、若い年代の層からの支持も集まったとみられている。

本誌レポート 今後の展望

～インタビューを終えて～

## 藤井議員の不出馬を 組織の若返りに生かせるかが 薬剤師連盟の正念場

周知の通り、藤井基之議員が次回、参議院議員選挙に出馬しない意向を表明している。これにより選挙準備が不十分になれば、日本薬剤師連盟が支援する“参議院議員2人体制”はわずか3年で終わりを告げる可能性が出てきた。

藤井議員不出馬の要因については、「健康不安説」や「自民党70歳定年説」などを指摘する向きもあるが、藤井議員に相対した立場としては、藤井議員の「人を育てなければ組織は脆弱化する」との危機感に、強い思い入れを感じた。「薬剤師の平均年齢はいくつなのか。そういった人の言葉を一番に聞いて、発信できる人を前面に立たせるべきだ」との言葉はまさに正鵠を射ている。

本田議員の支援の声はSNSなどでの盛り上がりもあった。支援層に比較的若い層も含まれていたことは間違いない。勤務薬剤師も増える中、“オール薬剤師”の声を吸い上げ、政治に届けることは、連盟だけでなく、薬剤師会の大きな課題になるのではないだろうか。

今後、連盟は参議院議員の候補者を選び、急ピッチで体制構築を進める考えだ。

藤井議員の不出馬を、組織と支持層の若返りに生かせるかどうか、連盟と薬剤師会の正念場といえる。

本誌編集長兼デスク・菅原 幸子